

ごあいさつ



日本WHO協会 理事
大日本除虫菊株式会社 代表取締役会長
上山 直英 (うえやま なおひで)

当社の創業者・上山英一郎は1885年、前身である上山商店を創業しましたが、当初は実家のミカンを輸出する会社として起業しました。当時の日本は積極的に海外の文化を吸収しようとしており、日本の発展を維持するための新しい技術を取り入れることに成功しながらも、害虫や疫病まで輸入してしまうという時代背景がありました。ミカン農家を営む英一郎にとって害虫駆除は大命題であり、そんな最中、殺虫効果をもつ除虫菊と出会えたことはまさに天命であったといえるでしょう。

その除虫菊との出会いをきっかけに、ミカン輸出の傍ら、日本で古くから被害に悩まされていた蚊への対策品を発明し、その後ハエ・シラミ・ノミといった、時代の流れに合わせて出現する新たな害虫との戦いを続けてきました。

近頃ニュースなどでもよく取り上げられているトコジラミ（ナンキンムシ）は、江戸時代に外国船を買った時に入ってきたという記録があります。衛生状態の改善や殺虫剤などの技術進歩により、昭和30年代に一度落ち着きをみせたものの、近年、都市部を中心とした宿泊施設や住宅への侵入・定着が報告されています。トコジラミは一度発生すると駆除が困難なことも多く、また衛生上だけでなく、社会的・経済的にも大きな影響を及

ぼす可能性もあることから、早期発見と適切な対応が求められています。また、日本では消滅したと言われていたデング熱が、60年ぶりに流行したこともありました。

このように、被害の減少が見受けられた害虫でも、時代の流れによって再度問題になることもあり、海外との交流には予想外の課題はつきものです。こうした変化にも柔軟に対応し、適切な情報を共有しあうことが今後ますます重要になってくるでしょう。

WHOの憲章に「ひとつの国で健康の増進と保護を達成することができれば、その国のみならず世界全体にとっても有意義なことです。（日本WHO協会 訳）」と書かれています。日本で発明された蚊取り線香から殺虫剤産業がはじまり、そしてその殺虫剤は日本のみならず世界にひろがり、各国の健康的な生活を維持するために欠かせない製品となりました。当社が長年培ってきた知識や技術は、まだ見ぬ害虫への脅威にも必ず対応できると信じています。引き続き皆様の健康と健やかな生活の一助となれるよう、努めて参りたいと思います。

2025年10月